



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和6年12月24日) 第28号



学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

八鹿青溪中 HP

2学期終業式式辞

「昨年度の2学期は、八鹿青溪中学校にとって、「飛躍の秋」「躍動の秋」となると話をしましたが、今年度もそれに負けず劣らずの2学期になったように感じています。

まずは、9月の体育祭。猛暑の中での練習が続きましたが、ソーラン節をはじめとして、各種目・各演技で力強い演技を見せてくれて、素晴らしい体育祭当日になりました。

また、10月に実施した八鹿青溪マラソン大会では、成績上位の生徒も、下位の生徒も、自分ひとりの責任で最後まで必死にゴールをめざし、たいへん感動しました。

さらに、11月の合唱コンクール。どの学年も、どのクラスもコンクール当日までの練習で校舎内に美しい歌声を響かせてくれましたし、当日は、その練習の成果が表れ、感動的な歌声を耳にすることができました。

ところで、これら各種校内行事では、皆さんといっしょに参加することができなくても、応援のために会場に来たという生徒がいたことも忘れてはいけないと思っています。

対外的には、3年生が10月に兵庫県中学校総合文化祭・音楽部門に参加し、多くの観客の前で、見事な合唱およびダンスパフォーマンスを披露してくれたことも心に強く残っていますし、部活動の但馬新人戦ではソフトボール部、男子ソフトテニス部、卓球部が県大会進出を果たしました。また、但馬中学校駅伝大会では男子、女子ともに上位進出を果たし、アベックで県大会へ出場しました。

反面、惜しくも県大会に出場することができなかった部もありますが、爽やかなあいさつをするなど大会中のマナーで褒めていただいた話もあり、八鹿青溪中学校の名に恥じない立派な態度で大会に臨んでくれたと思っています。

いっぽう、皆さんの活躍は、芸術・文化面においてもめざましく、今年度も理科の自由研究、読書感想文、税の作文、人権作文、書道、絵画、作文、詩、短歌、俳句、冠句などの各種コンクールで優秀な成績を収めた人が多く出ました。全校集会における表彰伝達にかなりの時間を費やして、毎回のように嬉しい悲鳴を上げていましたし、外部の方が直接表彰をしてくださるものもあり、ありがたいことであると感謝の気持ちを抱きました。

さて、これまで学校行事や部活動をはじめとする対外行事、また、各種芸術・文化コンクールの話をしてきましたが、日常の授業における成長を感じた2学期でもありました。特に、自分の意見を人前で堂々と述べたり、グループやペアで相手の意見に耳を傾けたり、さらには、授業の記録や感想を文章で分かりやすく綴ること



ができる生徒が多くなってきたように感じています。時折、お客さんに授業風景をご覧いただく機会があり、一様に、「八鹿青溪中の生徒は、いきいきと自分の考えを表現していて素晴らしい」と高く評価していただきました。主食である「ご飯」に例えられる日常の授業を、このように褒めていただくことは、教師としての最高の喜びであることは言うまでもありません。

また、2学期の出席簿を見ると、1日も休まずに登校した、あるいは、ほとんど休まずに登校したという生徒がたいへん多く、まさに、校訓の「貫徹」を体現した生徒たちとして私はこのことを高く評価したいと思っています。

最後になりましたが、今私が話してきた皆さんの頑張りはいったい誰が支えているのでしょうか。言い換えるなら、誰が指導や支援をしてくださったおかげでしょうか。それは、ここにいる八鹿青溪中学校の各先生方です。八鹿青溪中学校の先生方は、朝早くから夕方遅くまで全力で皆さんに関わり、皆さんの成長や活躍を心の底から願ってくれています。令和6年度も3学期を残すのみとなりましたが、八鹿青溪中学校の生徒と八鹿青溪中学校の職員が一丸となって有終の美を飾れるようにスクラムを組みましょう。

もちろん、各ご家庭では保護者の方々が、皆さんを支えておられることも忘れてはいけません。規則正しい生活を続けるためには、皆さんのご家族の協力が大きいのです。

『一年の計は元旦にあり』と言い、日本では昔から年の初めを大切にしてきました。皆さんの3学期がさらに素晴らしいものになることを期待して、2学期終業式の式辞とします。どうぞ、良いお年を。」

生徒会役員選挙立会演説会並びに投票

12月16日(月)、生徒会役員選挙立会演説会並びに投票が行われ、八鹿青溪中学校の新しいリーダーが誕生しました。現3年生が引き継いでくれた素晴らしい校風をしっかりと受け継ぐと同時に、また新しい八鹿青溪中学校を“創造”してくれることを期待します。演説会の舞台上に上がった生徒たちに拍手を送ります。

部活動の“「地域移行」、「地域連携」、「地域展開」”

令和5年度校報「八鹿青溪」第24号(令和5年12月12日発行)で国が進めようとしている「部活動の地域移行」について触れさせていただきました。最近、新聞やテレビ等で報道される機会が増えており、保護者の皆さんの中にもきっと関心を持っておられる方が多いのではないのでしょうか。加えて最近では、「地域連携」「地域展開」という新たな言葉も出てきており、そのことは、この部活動改革の難しさを露呈しているという声も聞きます。いずれにしましても、部活動改革は各学校単位で推進するものではなく、各都道府県・各市町村単位でそれぞれの地域の実情を踏まえて推進するものとされ、養父市では、来月予定の中学校入学説明会の場において教育委員会による説明をしていただけるとのことです。学校としては、それを待ってあらためて現中学校保護者の皆様にもその内容をお伝えできればと考えています。



令和6年度納税表彰式並びに感謝状贈

